



平成22年8月30日

防災週間中に家具類の転倒・落下防止措置をしよう！

～ こんな時にも家具類の転倒・落下防止措置は大変有効です ～

東京消防庁では、本日8月30日から9月5日までの防災週間を捉え、家具類の転倒・落下防止措置の実施を呼びかけています。当庁が本年6月に行った世論調査の結果では、家具類の転倒・落下防止措置を行っている人は47%にとどまっています。

当庁管内では、平成17年4月から平成22年6月末までに、ふとしたきっかけでタンスや本棚などの転倒・落下により下敷きになるなどの事故で67人が医療機関に救急搬送されています。

地震時はもとより、日常生活に起こるこうした事故を防ぐためにも家具類の転倒・落下防止措置の実施を呼びかけています。

▶ **子供と高齢者に事故が多い！**

負傷者は、5歳以下（24人）と60歳以上（27人）で全体の約76%を占めている。

▶ **転倒・落下した原因は日常生活の中で起きている！**

原因は、「引き出しを強く開けた」「引き出しなどに乗った、ぶら下がった」「移動した」「支えとした」など地震以外の理由でも発生している。

▶ **負傷した人の約5人に1人が入院を要する中等症！**

○ **#7119を利用しよう！**

病院へ行った方がいいのか、又は、救急車を呼んだ方がいいのか、判断に迷った場合には「東京消防庁救急相談センター（#7119）」へご相談ください。

詳細は、別紙資料をご覧ください。

東京消防庁では、家具類の転倒・落下に係る救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

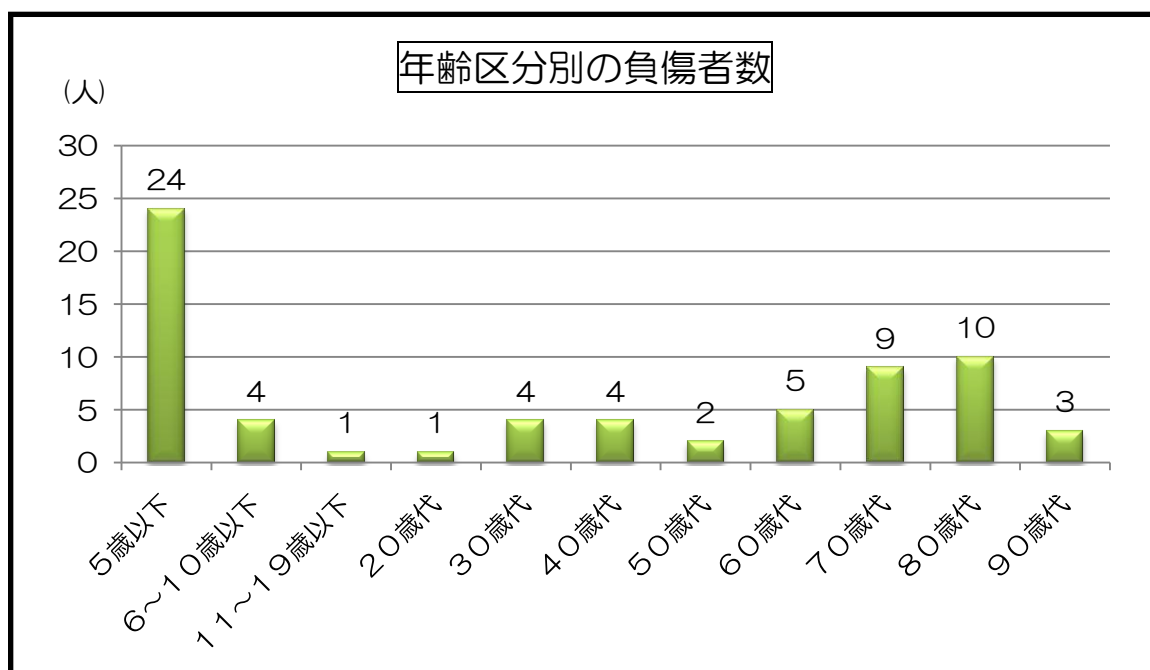
問い合わせ先

東京消防庁 代 電話 3212 - 2111
生活安全課生活安全係 内線 4206
広報課報道係 内線 2345～2349

家具類の転倒・落下による事故の発生状況

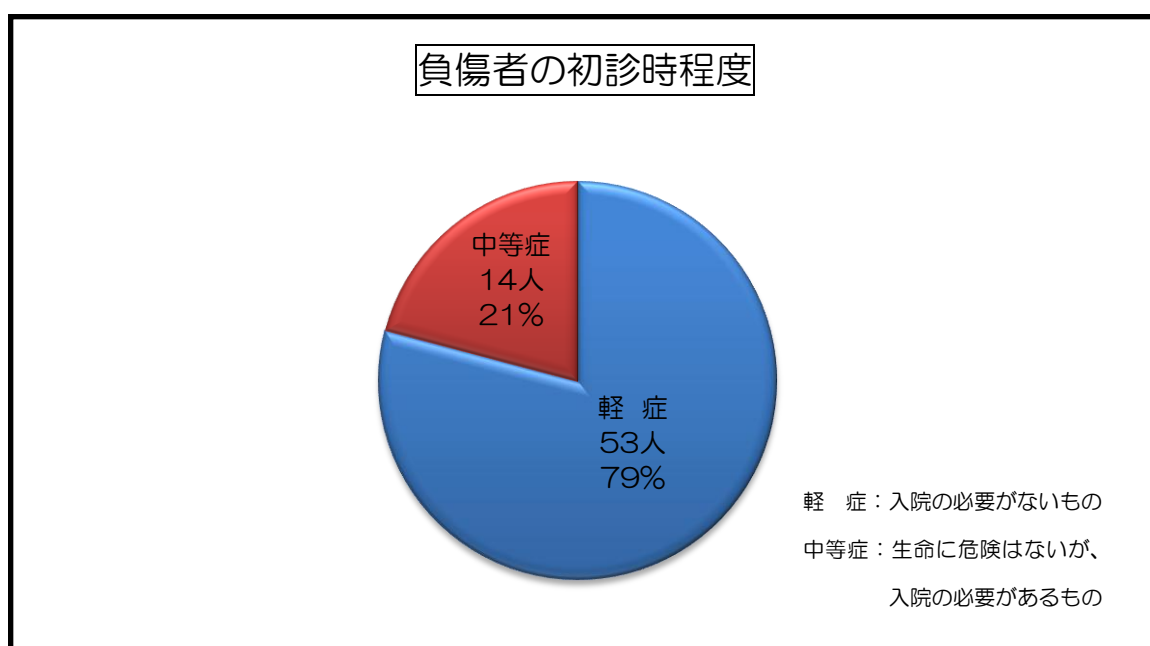
1 年齢区分別の負傷者数

負傷者数を年齢区分別に見ると、5歳以下の乳幼児と60歳代以上の高齢者に多く発生している。



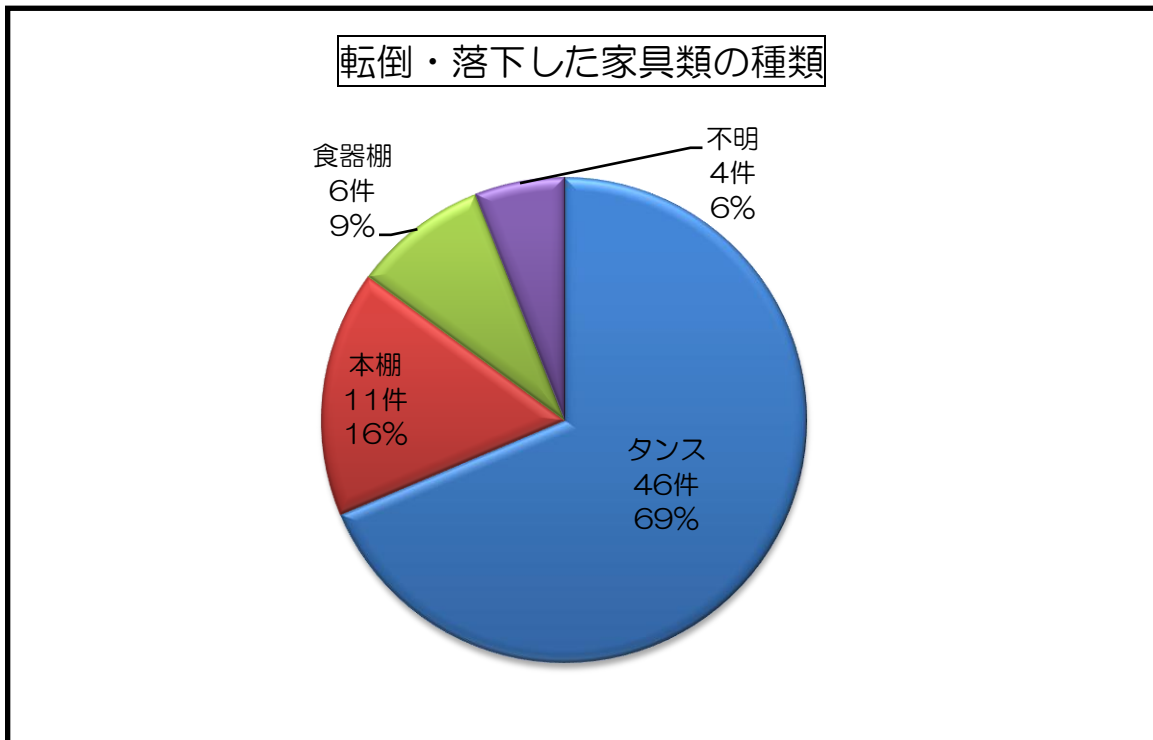
2 負傷者の初診時程度

全体の約21%で中等症となっている。



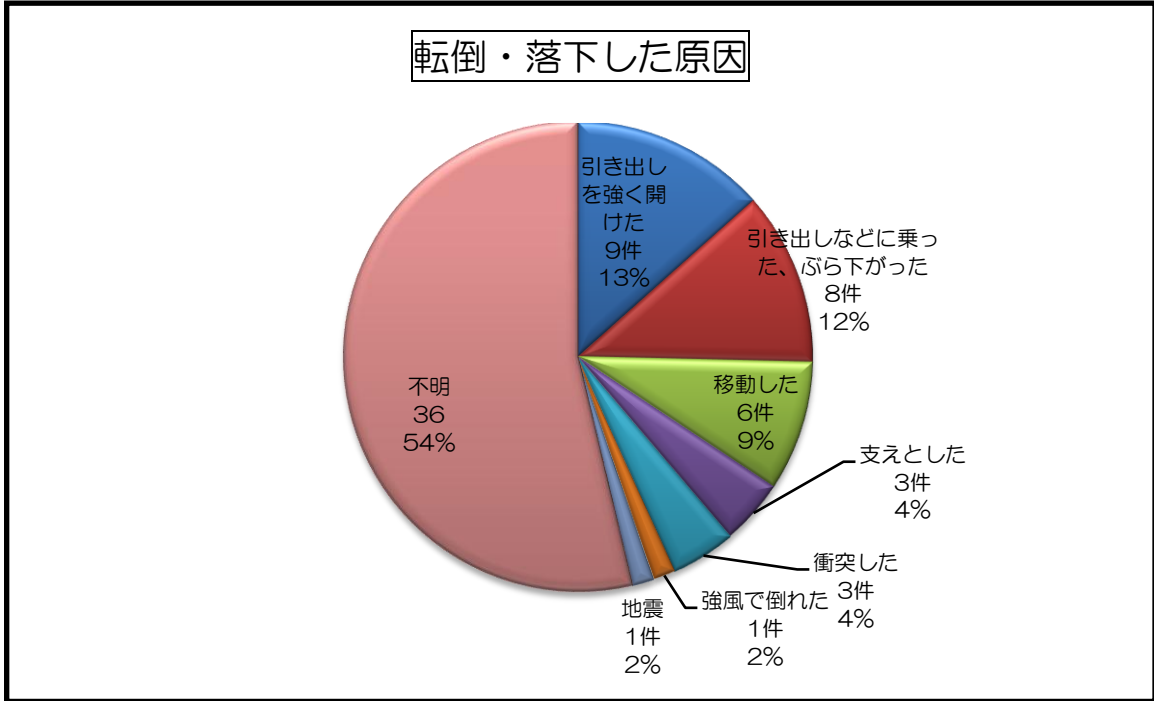
3 転倒・落下した家具類の種類

タンスが最も多く約69%を占めている。



4 転倒・落下した原因

10歳以下の子供は、「引き出しを強く開けた」「引き出しなどに乗った、ぶら下がった」の原因が約82%（14件）を占めている。転倒・落下した原因が「支えとした」の場合は、すべて高齢者が負傷している。



年齢区別の転倒・落下した原因

単位：人

	引き出しを強く開けた	引き出しなどに乗った、ぶら下がった	移動した	支えとした	衝突した	強風で倒れた	地震	不明	計
5歳以下	5	8	—	—	—	—	—	11	24
6～10歳	1	—	—	—	1	—	—	2	4
11～19歳	—	—	1	—	—	—	—	—	1
20歳代	—	—	—	—	—	—	—	1	1
30歳代	—	—	—	—	—	1	—	3	4
40歳代	—	—	1	—	—	—	1	2	4
50歳代	1	—	—	—	—	—	—	1	2
60歳代	—	—	1	—	1	—	—	3	5
70歳代	2	—	2	1	1	—	—	3	9
80歳代	—	—	1	—	—	—	—	9	10
90歳代	—	—	—	2	—	—	—	1	3
計	9	8	6	3	3	1	1	36	67

5 転倒・落下した原因別の事例

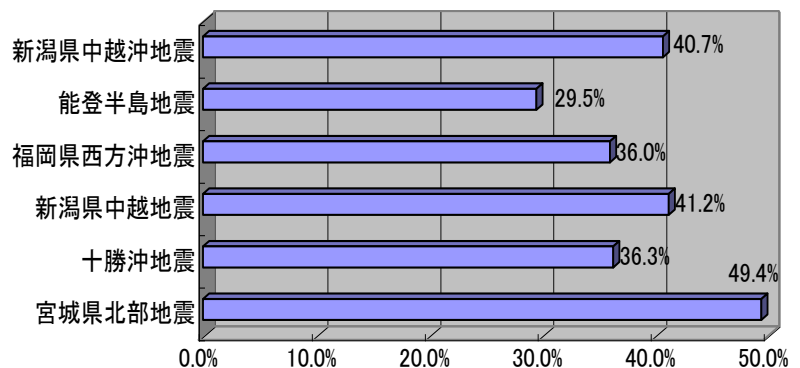
転倒・落下した原因	事例概要
引き出しを強く開けた	55歳女性が、着替えるため洋服ダンスの扉を開けようとしたところ、洋服ダンスが倒れてきてその下敷きとなり受傷したもの。(中等症)
引き出しなどに乗った、ぶら下がった	3歳男児が、茶ダンスによじ登って遊んでいたところ、ダンスが倒れて下敷きとなり頭部を受傷したもの。(軽症)
移動した	73歳男性が、洋服ダンスを移動していたところ、洋服ダンスが倒れ左前腕部が下敷きとなり受傷したもの。(軽症)
衝突した	9歳女児が、自宅居室内で走っていたところ食器棚にぶつかり、倒れてきた食器棚を支えようとして頭部を受傷、また割れた食器で左足裏部を受傷したもの。(軽症)
支えとした	90歳女性が、台所で茶ダンスにつかまって立とうとしたところ、茶ダンスごと転倒し下敷きとなり、受傷したもの。(軽症)
強風で倒れた	33歳女性が、ダンス(高さ2m×横幅2m、重さ推定30kg)をペンキで塗装していたところ、風でダンスが倒れて下敷きとなり受傷したもの。(軽症)
地震	42歳女性が、自宅居室において就寝中、地震の揺れでダンスが体の上に倒れ腰部と腹部を受傷したもの。(軽症)

6 地震時の家具類の転倒・落下による負傷率

地震時に怪我をされた方の3～5割が家具類の転倒・落下によるものです。



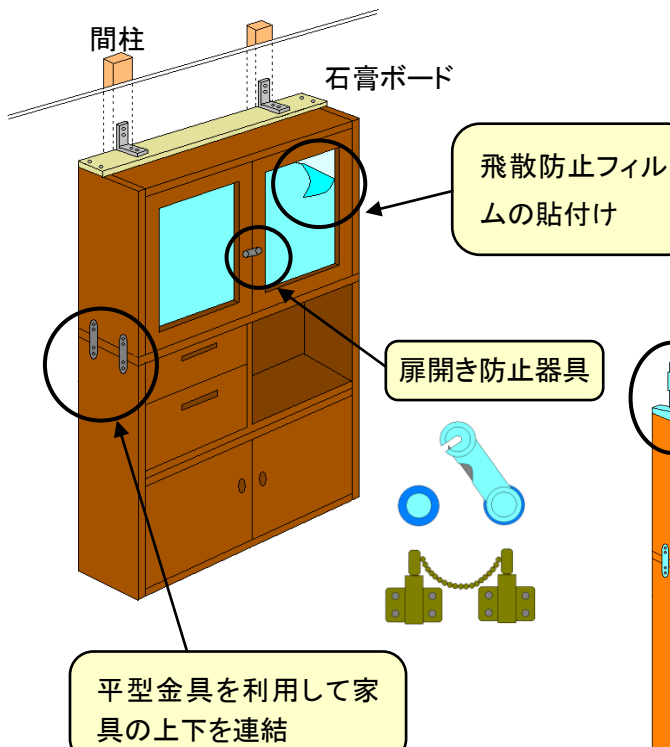
地震時の家具類の転倒・落下による負傷率



7 家具類の転倒・落下防止措置の方法

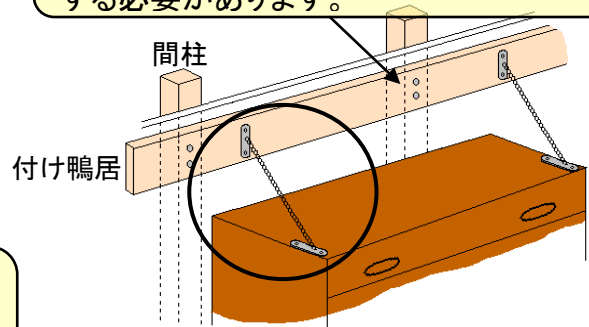
L型金具による固定

L型金具を壁に直接取り付ける場合は、壁の強度のある部分(石膏ボード壁裏の間柱など)にネジで固定する。



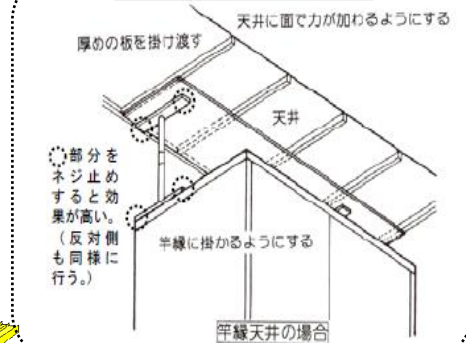
チェーン式やベルト式による固定

接着されている付け鴨居は、間柱等に固定する必要があります。



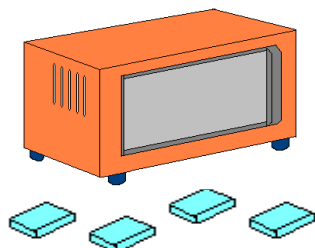
ポール式による固定

天井に強度がない場合



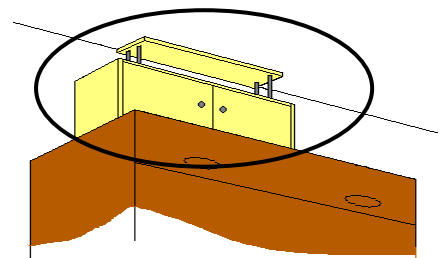
ストッパー式やマット式と併用すると効果が高くなります。

粘着マット式による固定



粘着マット式は小型のテレビや電子レンジに適しています。

すき間家具による固定



※上記は、一般的な家具類の転倒・落下防止措置の方法となります。転倒・落下防止措置について、個別に相談したい場合は、最寄りの消防署へお問い合わせください。